

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32206

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2022

課題番号：20K13140

研究課題名(和文)医療福祉系大学におけるEMI(英語を媒介とする授業)実施状況調査

研究課題名(英文)A Situational Survey on "English Medium Instruction (EMI)" in Healthcare College

研究代表者

齋藤 隆枝(Saito, Takae)

国際医療福祉大学・総合教育センター・助教

研究者番号：20827802

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は英語で専門科目を教授するEMIの実践報告が少ない医療系大学を対象にEMI実施状況を調査し、現状と課題を把握することで、医療系大学におけるEMI実施の可能性を探ることである。

2021年に全国の医療系大学287校を対象にした調査の結果、94校から有効データを収集した(回収率32.8%)。結果、大部分の医療系大学(78校, 83.0%)でEMIは未実施であった。理由には「これまでEMI実施について検討することがなかった」が最も多く、次いで「学生の内容理解不足を懸念」、「EMIを担当する教員確保が困難」などが挙げられた。一方でEMIを開講している大学は14校(14.9%)であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果から調査に協力した多くの医療系大学でEMIが実施されておらず、未実施校ではEMI導入の検討自体が行われていない状況が明らかになった。EMP(English for Medical Purposes: 医学目的の英語)が浸透する医学部ではEMIの導入が進む一方で、4年間で国家資格の合格を目指す医療系大学では医学部と同じ理由でEMI実施のコンセンサスを得ることはEMI導入の意義、医療系学生の多忙さ、教員不足や教員の英語力などを考慮すると容易ではない。EMI導入の意義の再検討及び対人援助職が必要とする英語力を明らかにする必要性等の課題を見出したことに本研究の学術的、社会的意義がある。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to explore the possibility of implementing EMI in healthcare colleges, where there are few reports of EMI practices.

As a result, 94 out of 287 healthcare colleges participated in the online survey nationwide in 2021 (collection rate: 32.8%). The results showed that most of the schools (78 schools, or 83.0%) had not implemented EMI. The most common reason given was that "we had not considered its implementation," followed by "it might prevent students from understanding content," and "securing human resources is difficult." On the other hand, only 14 universities (14.9%) were offering EMI.

研究分野：外国語教育

キーワード：医療系大学 EMI 教授媒介としての英語 実施状況

1. 研究開始当初の背景

EMI (English Medium Instruction: 教授の媒介としての英語) は「人口の大部分の人々が英語を第一言語としない国や地域において (英語以外の) 専門科目の教授に英語を用いること (Macaro, 2018) と定義される。学習者は科目内容を英語で学ぶことで、自らの専門分野に必要となる英語力を科目学修を通して習得することが可能となり、英語を第一言語としない多くの国の高等教育機関で導入されている。日本でも EMI は広く受け入れられており、文部科学省によると 2016 年の段階で日本国内にある大学全体の 41% にあたる 305 大学で EMI が取り入れられているとの報告があった。

EMI 実施については以下の利点があげられる。

- ・学生は専門科目を英語で学ぶことにより、自らの専門分野に特化した英語力習得の機会となる。
 - ・留学生は大学教育を共通語としての英語で受講する機会となり、日本語の習熟度に関わらず単位 / 学位取得が容易となる。
 - ・教員は授業に関する英語文献を日本語に翻訳する手間を省くことができ、また日常的に英語を使用することで教員自身の英語力のメンテナンスの機会となる。
- とはいえ、前述のような利点が注目される一方で、以下のような懸念や課題も報告されている。
- ・授業の内容理解には学生の英語力が大きく影響する。英語力に差がある学生を同一のクラスに集めて授業を行うと、英語力が高い学生は授業内容が薄い、進捗が遅いなどの不満を持ちやすく、英語力が比較的低い学生は授業についていくことが困難になる。
 - ・学生の英語力の差による内容理解をサポートするための時間、これまで日本語で行ってきた授業を英語で行うことにより授業資料を作り直す時間などが多くなり、教員の負担が増える。
 - ・専門科目を英語で教授する経験と英語力を兼ね揃える教員の確保が難しい。

これらの課題に対応しつつ、EMI 実施における利点を最大限に生かす取組みが EMI 導入のために必要である。

近年、観光やビジネス、そして就労を目的として日本に滞在・在住する外国人が急増しており、日本語と第一言語としない人々が医療機関を受診する機会が増えている。地方都市の総合病院に勤務する医師や看護師も週に一度は英語で外国人患者対応の機会があり (Willey ら, 2016)、医療従事者にとって英語力の習得は必須である。医学部では医学研究、情報収集、診察などを英語で行うための EMP (English for Medical Purposes: 医学目的のための英語) が浸透しており、EMI の実践報告も多い。一方で看護師、理学療法士、作業療法士等の対人援助職を養成する医療系大学における EMI の実践報告は本研究の開始以前、ほとんど見られなかった。医療系大学でも EMI 実施による英語で学ぶ機会が増えれば、対人援助のスペシャリストたちの英語力の底上げにつながるのではないか。医療系大学に EMI 導入は求められているのか。医療系大学における EMI 普及のために現状と課題を把握する必要があると考えたのが本研究の着想に至った経緯である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、英語で専門科目を教授する EMI の実践報告が比較的少ない医療系大学を対象に EMI 実施状況を調査し、現状と課題を把握することで対人援助職を目指す大学生を対象とした EMI 実施の可能性を探ることである。

3. 研究の方法

調査対象: 医療系学科の中で最も設置数が多い看護学科を設置する大学

調査対象校の抽出: 文部科学省取りまとめの「文部科学大臣指定 (認定) 医療関係技術者養成学校一覧 (2020 年度)」から国立、公立、私立の看護師学校 (大学) 延べ 287 校を調査対象として抽出した。

有効回答数: 調査対象校 287 校のうち 94 校 (回収率 32.8%) から有効回答を得た。

調査実施期間: 2021 年 2~3 月

方法: Google Forms を用いたオンライン形式の質問紙調査

手順: 調査対象校が先述の文科省取りまとめの「文部科学大臣指定 (認定) 医療関係技術者養成学校一覧 (2020 年度)」に掲載している代表の所在住所宛てに調査協力依頼書を送付した。調査協力書には研究の意義を説明するとともに、アンケートにアクセスするための QR コード及び URL (日本語版と英語版を選択可能) を記載した。

質問項目: 大学名、学部名、学科名、設立形態、キャンパス全体の学生数、回答者の所属と職種等の基本情報に加えて EMI 科目の設置状況について尋ねた。本調査で用いる用語: EMI とは「一般教育科目や専門科目を英語で学ぶ授業であり、英語で英語を学ぶ授業は除外する」と定義した上で、看護学科の学生が履修可能である EMI 科目の開講状況を「開講中、1 年未滿に開講予定、開講予定、未開講」の選択肢を設け、それぞれの項目についての状況と未開講であればその理由を尋ねた。

4. 研究成果

(結果)

回答のあった94校のうち、14校(14.9%)がEMI科目を開講中、1校が1年以内に実施予定、1校が実施予定であるが時期未定、78校(83.0%)が未実施であった。開講している大学の設立形態は国立が5校、公立が3校、私立が6校、学生数が999人以下のキャンパスが4校、1000~2999人のキャンパスが3校、3000~9999人のキャンパスが4校、10000人以上のキャンパスが3校であり、設立形態やキャンパス規模によるEMI実施の差は見られなかった。開講しているEMI科目の分野系統は医療看護系が最も多く9件、ついで人文社会系が4件であった。キャンパス内に他学部も併設されているある国立大学ではすべての分野系統において10科目以上のEMI科目が開講されており、看護学科の学生が履修可能であったが、このような環境を持つ大学は1校のみであった。開講しているEMI科目で最も多い医療看護系の科目では、具体的には「国際看護論、The law and politics of international society, Japan Seen from Outside, Japan's Interactions with Other Cultures」など国際関係論関連の科目が多く、そのほとんどが選択科目での開講であった。半数以上のEMI担当教員の第一言語は日本語であり、彼らはEMI科目の他に日本語での共用・専門教育科目を兼任していた。2校ではEMI科目のみを担当する専任教員があり、別の2校では語学教員とのチームティーチングでEMIを実施していた。

一方でEMI未実施と回答した大学は94校(83.0%)であり、今後のEMI実施見込みについて55校(58.5%)が今後も実施予定はない、22校(23.4%)が分からない、3校(3.2%)が実施の意向はあるが時期未定と回答した。未実施の理由について複数回答で尋ねたところ、「EMIの実施を検討したことがない」が最も多く、次いで「英語力不足による学生の内容理解不足を懸念する」、「EMI担当教員の確保が困難である」、「教員の英語運用能力の不足」があげられた(図1)。

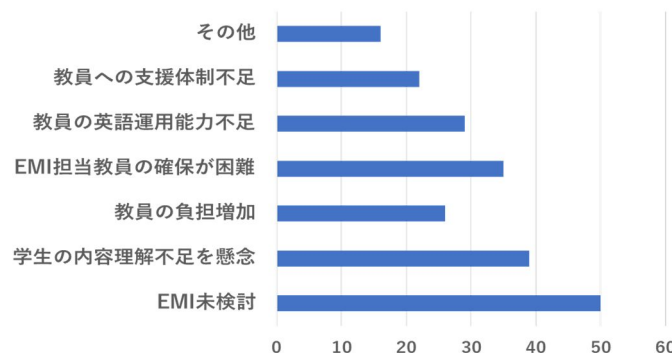


図1 EMI未実施の理由(複数選択可)

(考察)

看護系学科における恒常的な教員不足が指摘されており(鈴木 et al, 2019),カリキュラム改正による必要取得単位数の増加などの要因も重なり、看護学科においてさらなる教員負担を強いてEMI実施は現実的ではない。また、看護学生はじめ医療系大学の学生たちは専門科目の学修、演習、臨床実習、国家試験対策と、非常に多忙を極めること、国家試験に英語での出題は現状では行われていないことから(医師国家試験では英語での出題がある)、教授言語を英語に切り替えて専門科目を学ぶインセンティブにつながりにくい。世界的に導入が進むEMIであるが、何を目的として導入すべきなのかを改めて熟考する必要がある。また、医療系大学の学生が必要とする英語力とはどのようなものであるか、改めて学生及び医療現場でのニーズを踏まえて検討していく必要がある。

(参考文献)

Macaro E. (2018). English Medium Instruction. Oxford: Oxford University Press

Willey, I., McCrohan, G., & Nishiya, K. (2016). The English Needs of Doctors and Nurses at Hospitals in Rural Japan. *Journal of Medical English*, 15(3), 99-104.

鈴木由美, 金子順子, 入江浩子, et al. (2019). 国内文献に見る看護系大学における教員の課題について. *国際医療福祉大学学会誌*, 24(2), 61-71.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 齋藤隆枝	4. 巻 5(2)
2. 論文標題 医療系大学学生の英語で話すことについての意識の変容調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nursing English Nexus	6. 最初と最後の頁 6-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 齋藤 隆枝	4. 巻 20
2. 論文標題 医療福祉系大学における海外研修参加を希望しない学生の意識調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Medical English Education	6. 最初と最後の頁 16-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 齋藤 隆枝	4. 巻 4
2. 論文標題 「私の科研」：医療福祉系大学におけるEMI（英語を媒介とする授業）実施状況調査	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Nursing English Nexus	6. 最初と最後の頁 33-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 齋藤隆枝
2. 発表標題 医療系大学におけるEMI実施状況調査 -EMI(English Medium Instruction):専門科目を英語で学ぶ-
3. 学会等名 第28回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 齋藤 隆枝
2. 発表標題 医療系大学におけるEMI実践報告と課題
3. 学会等名 外国語教育メディア学会(LET) 関東支部大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 齋藤 隆枝、保崎 則雄、土性 香那実、関根 ハンナ
2. 発表標題 中高大まで連携するCLIL,EMI実践の課題
3. 学会等名 第27回大学教育研究フォーラム
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関